

中 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	1
IV	研究方法	2
	1 研究の流れ	2
	2 質問紙調査の実施	2
V	研究の内容	4
	1 ワークシートの開発	4
	2 研究授業1	4
	3 研究授業2	9
	4 ワークシートの発展的な活用	12
	5 ワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』の取組を 始めてからの生徒の変容	13
	6 生徒の意識の変容	14
VI	研究の成果と課題	16
	1 研究の成果	16
	2 今後の課題	16

4 技能を統合的に活用できる指導の工夫

I 主題設定の理由

平成24年度から、中学校において新しい学習指導要領が全面実施される。この新しい学習指導要領は、中央教育審議会答申(平成20年1月)の「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」などを基本的な考え方として各教科等にわたる指導の改善を図るための改訂が行われた。

この改訂の外国語科におけるねらいは、身近な事柄について一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようにすることであり、そのために、中学校での外国語の授業時数が105時間から140時間に増加し、指導する語数も900語程度から1200語程度までに増加した。一方、指導事項のさらなる定着を図るため、文法事項等の指導内容についてはおおむね従来のものである。また、平成23年度から小学校では第5学年から「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標とする外国語活動が実施される。このことにより、小学校で育成された「聞くこと」や「話すこと」を中心とするコミュニケーション能力の素地に、中学校では「読むこと」「書くこと」を加えた4技能を総合的に育成していくことになる。新しい学習指導要領の実施により今後は、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などを育成する指導を充実し、コミュニケーション能力の基礎を養うことになる。

これらのことを踏まえ、本研究部会では、「コミュニケーション能力の基礎を養う」ためには、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を授業の中で総合的に指導し、生徒が「読んだことについて、自分の考えを書く」など4技能を統合させて活用できるようにしていくことが必要であると考えた。また、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」の育成のためには、「話すこと」や「書くこと」に対する意欲を高めることが不可欠であると考えた。

本研究部会は、研究主題を「4技能を統合的に活用させる指導の工夫」とし、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信しようとする意欲を高める指導の工夫を研究する。

II 研究の視点

本研究では、生徒が「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等を「話すこと」や「書くこと」を通じて発信しようとする意欲を高める指導法を開発し、授業を通して実践していく研究を推進する。

III 研究仮説

本研究では、以下のように研究仮説を立てた。

4技能を組み合わせた指導法を開発し、授業で活用することで、生徒が「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、「話すこと」や「書くこと」によって発信しようとする意欲が高まる。

IV 研究方法

1 研究の流れ

(1) 基礎研究

学習指導要領の目標や内容等を分析し、4技能を統合した授業という観点から基礎研究を行い、4技能を統合した授業のいくつかのモデルを策定した。

(2) 意識調査の実施

研究員の所属校及び調査協力校を対象に質問紙による調査を実施した。

ア 生徒対象

- ⑦ 対象生徒数 1, 733名 (研究員所属校及び調査協力校1校の各学年の生徒)
- ⑧ 調査項目 生徒の英語学習における4技能に対する得意・不得意の意識等

イ 教員対象

- ⑦ 対象教員数 26名 (研究員所属校及び調査協力校10校の英語科教員)
- ⑧ 調査項目 英語の授業における4技能の指導方法等

(3) 研究授業の実践

基礎研究、意識調査の結果を踏まえ、「書く」活動について工夫をしたワークシートを作成し、効果を検証するために教育研究員全員の授業で実践した。また、ワークシートの活用工夫を研究するために2回の研究授業を実施した。

(4) 研究成果のまとめ

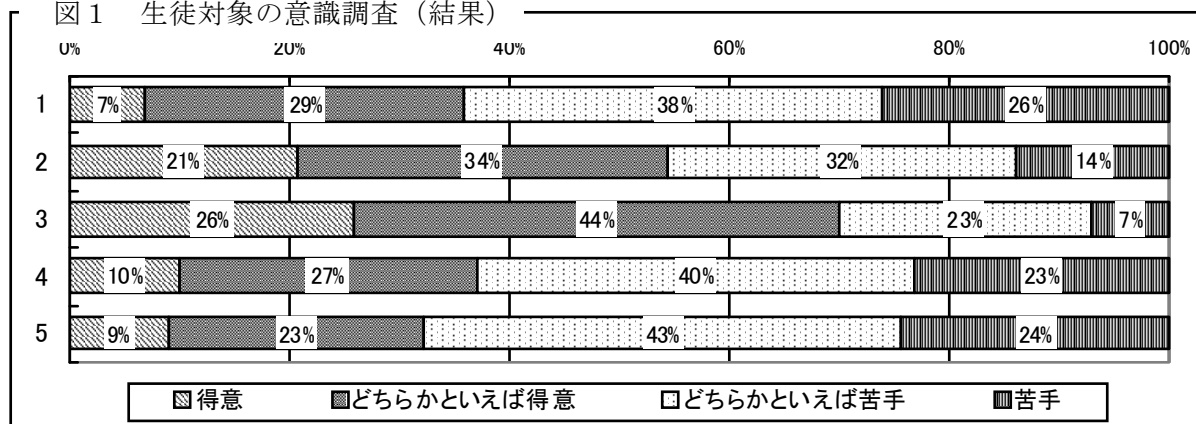
ワークシートの活用を始めてからの研究員の授業や平成22年9月に実施した研究授業における生徒の学習状況と、11月中に研究員所属校で行ったアンケートの結果を考察し、研究の成果をまとめた。

2 質問紙調査の実施

(1) 生徒を対象に、以下の項目について質問紙調査を実施し、下の図1の結果を得た。

- 1 ニュースや天気予報などの放送の英語を聞いて内容の要点を聞き取ること L
 - 2 自分のことについて簡単なスピーチをすること(1年生は3文、2年生は5文、3年生は6文程度) S
 - 3 教科書本文の内容の概要を(声に出さず)読み取ること R
 - 4 自分の考えを英語の文章で書くこと(1年生は1文、2年生は2文、3年生は3文程度) W
 - 5 教科書本文を読み、それについての感想を英語で言うこと(1年生は単語での感想でもよい) R & S
- L 聞くこと S 話すこと R 読むこと W 書くこと

図1 生徒対象の意識調査 (結果)



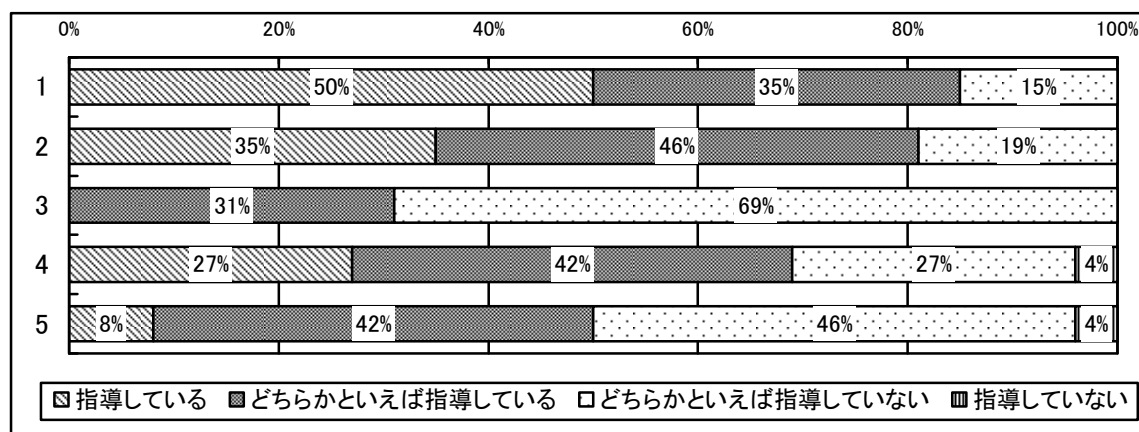
生徒対象の意識調査では、「苦手」、「どちらかといえば苦手」と回答した生徒は、「ニュースや天気予報などの放送の英語を聞いて内容の要点を聞き取ること」が64%、「自分の考えを英語の文章で書くこと」が63%と、全体の3分の2を占めている。また「教科書本文を読み、それについての感想を英語で言うこと」という2つの技能を統合させた項目では、67%であった。

一方、「自分のことについて簡単なスピーチをすること」は46%と「得意」「どちらかといえば得意」を合わせた数値よりも下回っている。また、「教科書本文の内容の概要を読み取ること」は30%と同様に下回る結果となった。

(2) 教員を対象に以下の項目について質問紙調査を実施し、下の図2の結果を得た。

- | | |
|---|---|
| 1 | まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取らせるための指導 L |
| 2 | 与えられたテーマについて簡単なスピーチをさせるための指導 S |
| 3 | 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりなどができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえさせるための指導 R |
| 4 | 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書かせるための指導 W |
| 5 | 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書かせる指導 W |
- L** 聞くこと **S** 話すこと **R** 読むこと **W** 書くこと

図2 教員対象の意識調査（結果）



教員対象の意識調査では、「指導している」、「どちらかといえば指導している」と回答した教員は、「まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取らせる指導」では85%、「与えられたテーマについて簡単なスピーチをさせるための指導」では81%と8割を超えている。

一方、「話の内容や書き手の意見に感想などが述べられるよう、書かれた内容や考え方をとらえさせる指導」では31%と3分の1程度にとどまっている。また、「正しく文を書かせる指導」については69%であるが、「自分の考えや気持ちなどが読み手に伝わるように書かせる指導」では50%と他の項目よりも相対的に低い結果であった。

V 研究の内容

1 ワークシートの開発

基礎研究を受けて、中学校では「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることで四つの領域をバランスよく指導するための研究が必要であると考えた。

また、意識調査の結果から、「自分の考えを英語で書くこと」、「読んだ内容について感想を言うこと」について苦手であると感じる生徒が多く、「話の内容や書き手の意見に感想などが述べられるよう、書かれた内容や考え方をとらえさせる指導」、「自分の考えや気持ちが読み手に伝わるように書かせる指導」について十分行っているとした教員が少ないということが分かった。

そこで、文章内容を多面的に「読むこと」を通して、感想や意見を「書くこと」に関心を高め、自ら進んで書く行動をしやすくなるような、ワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』の開発を行った。

(1) ワークシートの特徴

- ・書く内容に自由度があるため、生徒にとって書きやすい。
- ・一度に書く分量が少なく、取り組みやすい。
- ・「読むこと」から「書くこと」につなげ、さらに「書くこと」から「聞くこと」「話すこと」にもつなげることができる。
- ・短い時間で活用することができ、効果をあげることができる。
- ・単元を通して継続的に活用することができる。
- ・どの単元にも対応して活用することができる。

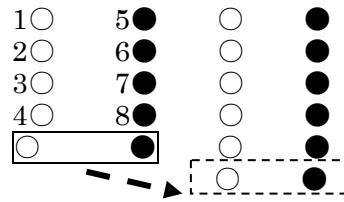
(2) ワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』の使い方

(**L**聞くこと **S**話すこと **R**読むこと **W**書くこと)

- ① 教科書の本文の導入および内容理解をした後に、その内容について生徒が自分の考えをもつような発問を行う。
- ② 教科書の内容についての感想を書かせる。各セッションでは1、2文で感想を書かせる。**W**
- ③ 意見の聞き方(What do you think?)や自分の感想の言い方(I think...)などを練習する。
- ④ ペアになり、お互いに自分の感想を発表する。セッションごとにペアを組み替え、発表し合う。メモはとらせない。**S** **L**
- ⑤ レポートのしかた(S1 said, "... ." / S1 thinks....)を練習する。
- ⑥ ペアの組み方を指示し、相手の感想をレポートさせる。**S**
- ⑦ 単元の終わりでは、それまでのセッションで書いた英文も参考にしながら、3から5文までのまとまった文を書かせる。**W**

※ペアの組み方の例

Pair A 隣り(1&5, 2&6...)
 Pair B 前後(1&2, 5&6...)
 Pair C たすきがけ(1&6, 5&2...)
 ※縦列の人数が奇数の場合、Pair B/C を組む時は図の○●の生徒を隣りの列の一番後ろに移動させ、縦列の人数を偶数とするなどの工夫をする。



<ワークシート活用(例)>

自分のことばで書いてみよう♪

年	組	番
氏名		

Unit (5) " A Park or a Parking Area "

p(50) *Starting Out*

Kumi is not happy.

こんなことが書けたら… 「くみはかわいそう。」

“Poor Kumi.” など

p(51) *Dialog*

I think they need another parking area.

こんなことが書けたら… 「近くの駅前もたくさん自転車が停まっている。」

“Many people park their bikes in front of the station near my house.” など

Pp(52)-(53) *Reading for Communication*

I think they need another parking area but they also need the park.

こんなことが書けたら…

Let's challenge!

このUnitの感想を書いてみよう。

Many people park their bikes in front of the station near my house.

That is a very bad thing.

I think people must change their habits.

こんなことが書けたら…

Tool Box

It is good/bad/interesting/important/difficult/easy....

I think (that) [文①] because [文②].

Tool Box は学年等に応じた内容とする

2 研究授業 1

ワークシート活用の導入時の9月初旬に、第2学年で次に示す研究授業を行った。

- (1) 使用教科書 NEW HORIZON English Course2 (東京書籍)
Unit 5 “A Park or a Parking Area” Starting Out

(2) 単元の指導計画 (6時間)

第1時 Speech/Chat and Report, if の導入, Unit5(1)

第2時 Speech/Chat and Report, 前時の復習,
自分のことばで書いてみよう (Unit5(1)), if の復習 <本時>

第3時 Speech/Chat and Report, 接続詞 that, Unit5(2),

第4時 前時の復習, 自分のことばで書いてみよう (Unit5(2)), 接続詞 when の導入

第5時 Speech/Chat and Report, 前時の復習, Unit5(3)

第6時 前時の復習, Unit5(4), 自分のことばで書いてみよう (Unit5(3)(4)/Unit5)

(3) 本時の目標

- ・「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、「話すこと」や「書くこと」により発信しようとする意欲を高める。
- ・接続詞 if の使い方にさらに慣れさせる

(4) 本時の指導展開

時間	生徒の活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)	4 技能
1 あいさつ及び英語の歌 (5分)	・あいさつする。 ・歌を歌う。	・目を見てあいさつする。		
2 スピーチ「10年後の私」(15分)	・4名の生徒がスピーチをする。 ・他の生徒はメモを取りながらスピーチを聞く。 ・4名のスピーチが終わったら2人1組でチャット(英語による簡単な話し合い)を行い、スピーチの感想を述べ合う。 ・レポートをする。	・スピーチをする生徒は事前に指名しておく。 ・チャット用のハンドアウトはなるべく見ないで感想を述べ合う。	・原稿を暗記しているか。情報量は十分か。態度は良いか。 <表現の能力> ・自分の感想を英語で言えるか。 <表現の能力>	S L S S
3 教科書 p.50 の復習(8分)	・閉本したまま(本文準拠)CDを聞く。			L

<p>4 ライティング活動 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の英語による質問に英語で答える。 ・本文を音読する。 ・ライティング用ワークシート(『自分のことばで書いてみよう♪』)に p50 に対する自分の感想を英語で1～2文で書く。 ・「相手の意見を聞く」「相手に聞き返す」「他者の考えを発表する」ための表現を練習する。 ・隣同士でペアを組ませ、お互いに自分の感想を言い合う。 ・前後でペアを組ませ、お互いに、自分の感想を言った後に隣の人の感想を報告し合う。 ・生徒を指名し、発表させる。発表は〔自分〕と〔自分以外の3人の誰か〕について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの使用は本時が初回なので使い方等を説明してから、感想を書かせる。 ・“What do you think?” “I think....”などを練習する。 ・相手の感想をメモ(英語でも日本語でも可)で残しておくように指導する。 ・他者の感想をメモ(英語でも日本語でも可)で残しておくように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを気にせずに英語で書けているか。 ・間違いを気にせずに英語で言えているか。 ・相手の情報を積極的に聞いているか。 ・ifの使い方を理解しているか。 	<p>R</p> <p>W</p> <p>S・L</p> <p>S・L</p> <p>S</p>
<p>5 ifのハンドアウト(11分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトに沿って演習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトに取り組ませている間に、前時に課した宿題を点検する。 		
<p>6 あいさつ (1分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目を見てあいさつする。 		

(5) ワークシートの活用について (授業後の考察)

ア 教師が先に感想の例を提示してしまうと、生徒が自分の意見、感想を書くときに幅広い発想がしにくくなる。

イ 相手の感想をメモすると、書くことに集中してしまい言っていることをすべて書き写そうとするため、アイコンタクトを取ることや、うなづきながら聞くことといったコミュニケーションの基礎がくずれてしまう。

ウ スピーキングの活動の際、ペアでの活動を2回行った後、さらに全体へレポーティングをさせたが、時間がかかってしまうため、「ワークシートの使い方」にある活動の流れに改善した。

(6) ワークシートの発展的な活用例

単元の終了後、生徒の書いたものからいくつかを取りあげ、さらにそれらについてどのように考えるかを書かせた。

自分のことばで書いてみよう (Unit 5)

Let's challenge! このUnitの感想を3~5文で書いてみよう。

So, I'm for new parking area plan.
Kumi's accident is very ^{dangerous} ~~bad~~ ~~bad~~ ~~bad~~.
A I want to make a new parking area ^{quickly} ~~fast~~.

I think bikes are very good for us.
But I also think they have a lot of problems.
B We should ride and park our bikes carefully.
I think we have to look around when we're riding our bikes.

I think the new parking area plan is good because this accident is important.
C I think a park is ^{not} ~~not~~ needed because ~~not~~ ~~not~~ ~~not~~ people don't use a park so much.

I thought bikes are dangerous because a bike ~~fall~~ ^{falls} on a little girl.
D I'm for the parking area plan because I think we can't change our habits. Kumi is poor.

E I think this problem is important. Mike's plan is very nice. But some people are against the plan. This problem is very difficult.

F Too many people park their bikes near the station. It is very dangerous, ~~because~~ ^{so} we need another parking area. I'm for Midori Park will become a parking area for bikes. I'm for the plan.

G Poor Kumi broke her arm. But remember that the accident taught us an important thing. I think so, too. So I'm against the plan.

H I think Kumi is poor. But ^(need) Midori park doesn't have to become a parking area. People are careful about bikes.

I I think Mike's plan is good. But some people need ~~them~~ ^{their} parks. So I am against the plan. I want to change our habits.

A~Iの中で自分の考えと一番近いものを1つ挙げ、感じたことや考えたことを英語で書こう!

I agree with 'I'. I think they have to change their habits, too. They can keep the park if they remember that they have to change their habits. But I think 'D' is a right opinion, too because to change their habits is not easy. I think if they can change their habits, that is the best.

Class: No.: Name:

3 研究授業 2

ワークシートの活用を改善するために、9月中旬に第2学年で次に示す研究授業を行った。

(1) 使用教科書 NEW HORIZON English Course2 (東京書籍)

Unit 5 “A Park or a Parking Area” Starting Out

(2) 単元の指導計画

- 第1時 ・ If節を用いた文についての理解・活用
・ Unit 5 Starting Out
- 第2時 ・ Unit 5 Starting Out の復習
・ Unit 5 Dialog
・ 自分のことばで書いてみよう (Unit5(1)) <本時>
- 第3時 ・ That節を用いた文についての理解・活用
・ Unit 5 Dialog の復習
・ 自分のことばで書いてみよう (Unit5(2))
・ Unit 5 Reading for Communication 1
- 第4時 ・ When節を用いた文についての理解・活用
・ Unit 5 Reading for Communication 1 の復習
・ 自分のことばで書いてみよう (Unit5(3))
・ Unit 5 Reading for Communication 2
- 第5時 ・ Because節を用いた文についての理解・活用
・ Unit 5 Reading for Communication 2
・ Unit 5 単元全体について考える。
・ 自分のことばで書いてみよう (Unit5(let's challenge!))

(3) 本時の目標

- ・ 4技能を総合的に指導することで、生徒が「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、「話すこと」や「書くこと」により発信しようとする意欲を高める。
- ・ ワークシートを用いて、自分の意見・感想を持たせる。
- ・ ワークシートを用いて、グループ内での発表をできるようにする。

(4) ワークシート活用の改善点

- ・ 書く活動に入る前に教師が例を提示するのではなく、生徒が題材について感想をもちやすくする発問をする。
- ・ 他の人の感想を聞くときは、メモを取らせずに聞き取らせる。
- ・ 全体に発表された感想についての意見を述べさせる。

(5) 本時の指導展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)	4 技能
1 あいさつ (1分)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつする。 曜日・日にち・天気を答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 目を見てあいさつする。 		
2 話す活動 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 全体で問答集を読む。 ペアになって問答の練習をする。 教師の質問に答えられる時に挙手し、指名された生徒は答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問答集に載っているもの以外の単語を用いて、自分なりの答えを言えるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問答集の表現を利用して、自分の考えを述べているか。 <表現の能力> 	R S・L
3 教科書 p50 の復習 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 閉本したまま本文を聞く。 本文を音読する。 本文内容についての質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> Picture cardを活用する。 		L R
4 話す活動 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 怪我や病院に対するイメージについて答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が題材についての感想を言いやすい発問をする。 		L・S
5 書く活動 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のことばで書いてみよう♪」に自分の感想を1、2文の英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導し、数名の感想を参考として紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを気にせずに英語で感想を書けているか。 	W
6 グループ内 発表 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 4人組になり、お互いに自分の感想を言い合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者が最も伝えたいことは何かを聴き取るように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを気にせずに英語で感想を言えているか。 	S・L
7 全体発表 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 4人組の代表が、[自分]と[自分以外の4人組の中の誰か1人]について発表する。 全体に発表された感想に対して、自分がどう思うかを同じ4人組以外の生徒に問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に発表された感想に対して、さらに感想を言えるような発問を教師がする。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを気にせずに英語で感想を言えているか。 	S L L S
8 あいさつ (1分)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目を見てあいさつする。 		

(6) 研究授業時における生徒の反応

全体的に、“Kumi is poor.”という、怪我をした女の子に対するいたわりの意を表す感想を書く生徒が多かった。中には、“I broke my leg two years ago.”といった自分の経験を書いたり、日本語で Kumi への励ましを書いたりする生徒もいた。

ただ、日本語では「早く怪我が治るといいですね。」というような表現を生徒は考えつくが、英語でどのように書いたらよいか考え込んでしまう生徒もいた。その生徒に英語の表現を思い浮かせるような発問を繰り返した。具体的には、「治るのはどういうこと？」“Good.”、「誰が？」“You.”、「未来だから？」“Will”、「そうだね。Will be だね。」などのように、生徒から引き出し、“You will be good soon.”と書いて表現することができた。

ワークシートを利用したライティング活動を始める前に、本文内容や自分もっている病院へのイメージ等についての教師との問答を中心としたスピーキング活動を行った。その結果、“I don't like hospital(s).”等の病院に対するイメージや、“I want to be a doctor.”や“My father is a doctor.”など自分の夢や家族について書く生徒もいた。

(7) 教師による発問の工夫

本文の内容について復習 (review) する際に、情景を思い浮かべさせるように、生徒自身の怪我などの体験を聞き出す発問をした。その結果“I don't like hospital.”と一人の生徒が答え、その意見に対して、“No, no. I like hospital(s).”という意見や、“I like hospital(s) because I like *chuusha no nioi*.”という理由を述べることもできた。その後、全体への「病院は好きですか。」という発問に結びつき、多くの生徒の意見を聞くことができた。ここで出た意見を、ワークシートに記入する生徒もおり、その後の単元のまとめにおける意見・感想では、自分の体験や病院、公園、駐輪場や隣の駅といった身近な物事に関連させたものが見られた。

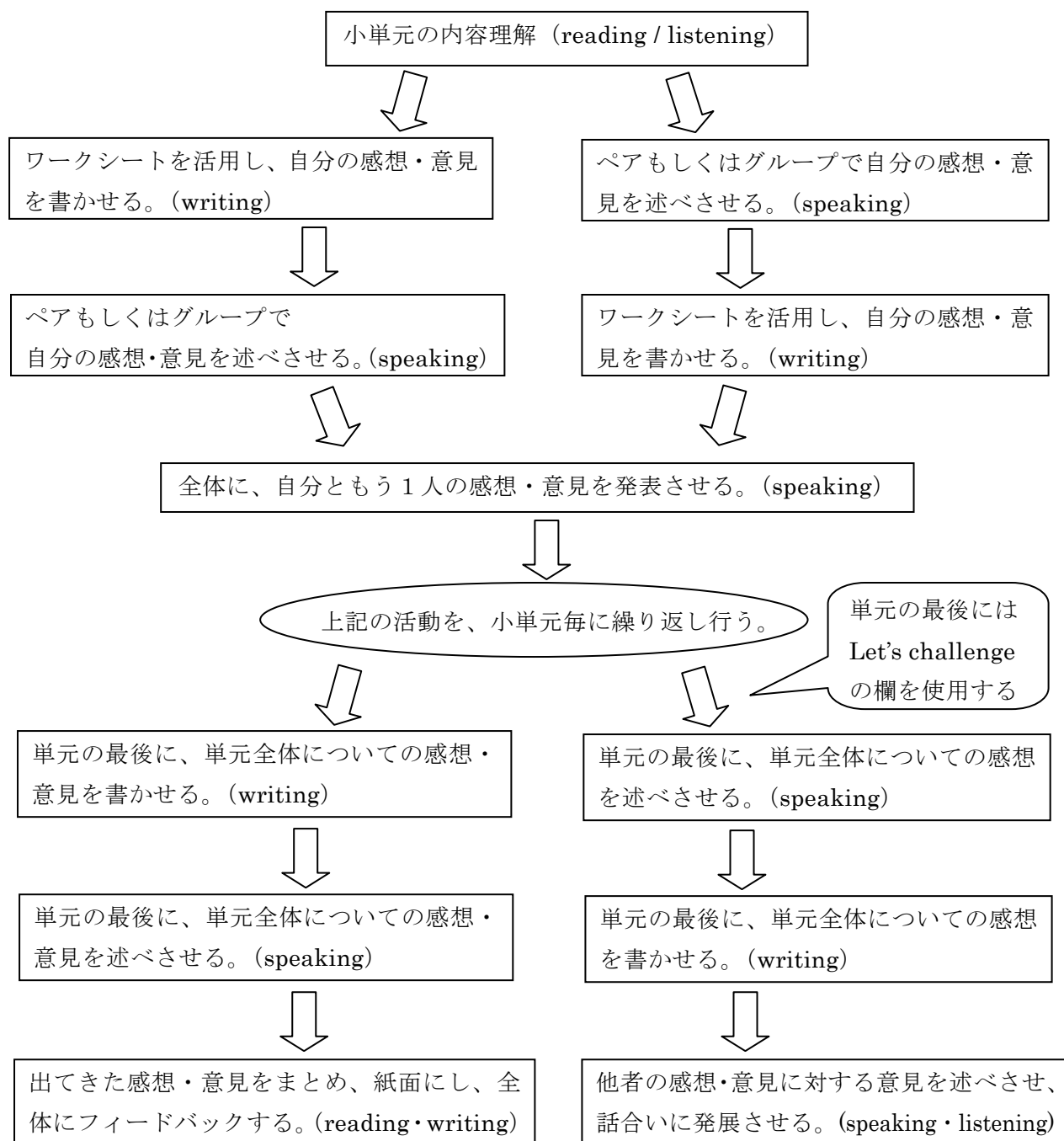
このようにワークシートをより有効に活用するための教師による発問の工夫として、生徒が他者の考えていることを聞き、自分の考えを言う活動をしやすいような発問の工夫が考えられる。例えば、クリスマスについての題材を扱っている単元では、本文の内容について復習 (review) する際に、過去のクリスマスについての体験や、日本や外国でのクリスマスの過ごし方、プレゼントやサンタ・クロース等の感想を抱きやすい話題についての発問が考えられる。



4 ワークシートの発展的な活用

ワークシートの発展的な活用の方法として、教師から“*What do you think about his idea?*”と問いかけることにより、全体に発表された生徒の感想への意見を数人に述べさせたり、単元の最後には単元全体の内容についての感想・意見を書いて発表させ、それに対する意見を述べさせるなどの活用ができる。

また、この活動に慣れるに従い、教師だけではなく、生徒も話し合いの進行を出来るようにし、さらなる話し合いに発展していくようにすることもできる。



*単元のまとめとして、研究授業1では紙面を利用したライティング活動を、研究授業2では意見を述べ合うスピーキング活動を行った。

5 ワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』の取組を始めてからの生徒の変容

教科書本文の内容理解の指導の中で、教師からの考えさせる発問に対して、生徒はより積極的に考え答えるようになった。また、教科書題材の内容についても積極的に読み取り、自分の考えや意見を述べるようになった。さらに、グループワークや全体への発表の際には、他者の意見を聞き取ろうとする姿勢が見られ、その意見に対する感想を言うような場面も見られた。

教科書以外の問題集に載っている短い英文を読んだ際にも、自分の感想を述べたり、休み時間等に教師に授業で扱った英文の感想を伝えたりする生徒が出てきた。また、「こんなとき英語では何と言ったらよいのか。」“How do you say ... in English?”などという質問を教師にしてくる生徒も増えてきた。

さらに、給食時に“Delicious.”と言ったり、感じたことに対して“Nice!”や“Good!”等の単語レベルで伝えようとしたりする生徒や自分で言いたい英文をつくるために辞書で調べる生徒が増えてきた。日常生活において自分が感じたことを、英語でどう表現したらよいかを考える意欲的な生徒が見られるようになった。

*ワークシートに見る生徒の変容

<9月下旬>

p.46 I think Japanese movies are wonderful.	初めての取組にとまどいながらも簡単に教科書から得た知識を書こうとしていました。
こんなことが書けたら…(日本語でも) アニメが面白い映画が好きなお事にあつた。	
p.47 In Germany they don't use plastic bags.	
Anna knows "3Rs" こんなことが書けたら… ドイツは、環境に優しい国だなーと思えた。	

<11月中旬>

p.59 I think that universal design is very good!	書くことに慣れてきて、自分の意見を書くことができるようになりました。
こんなことが書けたら…(日本語でも) もっとユニバーサルデザインが広まればいいです。	
p.60 Door handle is a nice idea!	意欲が高まり毎回自分の意見で2文以上をコンスタントに書けるようになりました。
こんなことが書けたら… とてもいい事だと思えた。	

<12月中旬>

p.69 7A I want to go to Tanzania.	
I want to see gnus! I think that shun speaks English very well.	
こんなことが書けたら…(日本語でも) 外国には一度も行った事がないので、一回行ってみたいですね。	
p.70 7B I want to go to Angel Falls. It is a very wonderful!	
I'm surprise because Angel Falls is three times higher than Tokyo Tower.	
こんなことが書けたら… インシエルの滝はなぜインシエルの滝というのか?	

6 生徒の意識の変容

(1) アンケートの実施

ワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』を授業で活用する前と後での個々の生徒の意識の変容を見るために、ワークシートを活用した授業を行った生徒569人に質問紙による意識調査を行った。

「ワークシートの学習に意欲的に取り組みましたか」という質問に対して右の図3のように355人(62.4%)の生徒が意欲的に取り組めたと回答し、214人(37.6%)が意欲的に取り組めなかったと回答した。

意欲的に取り組めたと回答した生徒には「進んで活動を行ったか」に関する三つの質問(表1)について質問紙調査を実施した。(下の図4)

図3 生徒への事後アンケート
「ワークシートの学習に意欲的に取り組みましたか」

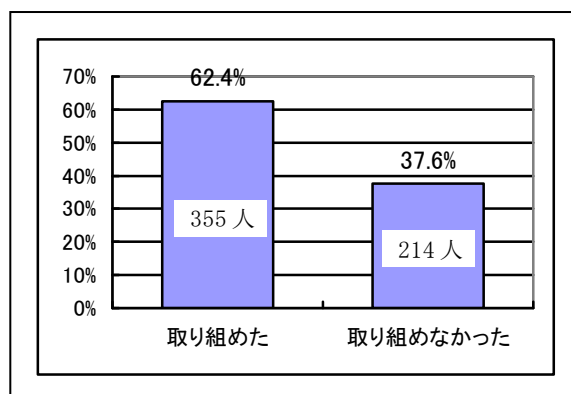
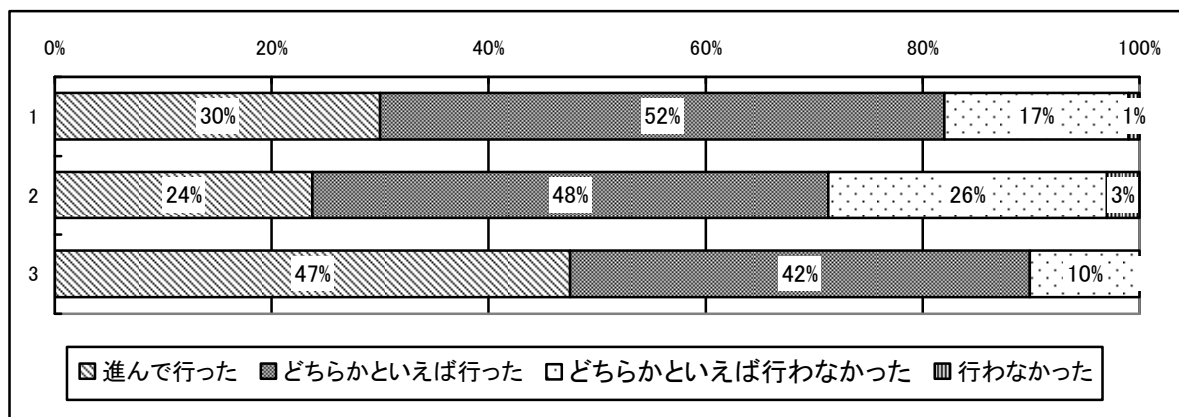


表1 「意欲的に取り組めたと回答した生徒への質問事項」

- 1 英語の文を読んで、英語で感想や意見を書くことを進んで行いましたか。
- 2 自分の感想や意見を英語で話すことを進んで行いましたか。
- 3 他人の感想や意見を聞くことを進んで行いましたか。

図4 意欲的に取り組めたと回答した生徒へのアンケート(結果)



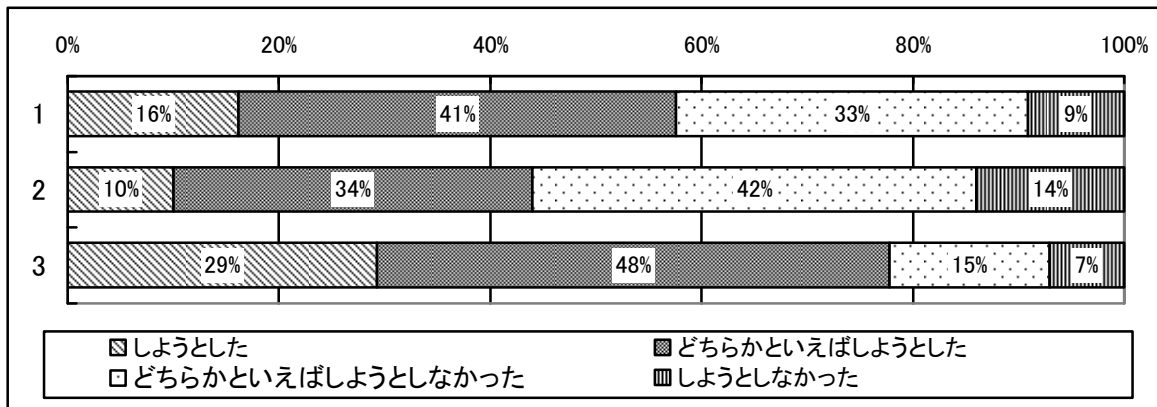
この結果から、「進んで行った」、「どちらかといえば行った」と回答した生徒の合計は、「英語で感想や意見を書くこと」が82%、「自分の感想や意見を英語で話すこと」が72%、「他人の感想や意見を聞くこと」が89%と、いずれも高い数字となった。一方、「行わなかった」と回答した生徒はいずれの質問項目において3%以下であった。

また、意欲的に取り組めなかったと回答した生徒には「間違いを気にせず活動を行おうとしたか」に関する3つの質問（下の表2）について質問紙調査を実施した。（下の図5）

表2 意欲的に取り組めなかった生徒への質問

1	英語の文を読み、間違いを気にせず英語で感想や意見を書いてみようとしたか。
2	間違いを気にせず、自分の感想や意見を話そうとしたか。
3	他人の感想や意見を聞き取ろうとしたか。

図5 意欲的に取り組めなかったと回答した生徒へのアンケート（結果）



この結果から、「しようとした」、「どちらかといえばしようとした」と回答した生徒の合計は、「英語で感想や意見を書いてみようとしたか」は57%、「自分の感想や意見を話そうとしたか」は44%、「他人の感想や意見を聞き取ろうとしたか」は77%であった。また、「しようとしなかった」はそれぞれ、9%、14%、7%といずれも低い数値であった。

(2) アンケートの結果の考察

本研究で作成したワークシートを活用した授業において、意欲的に取り組んだと回答した生徒の多くは、積極的に自分の意見や感想を英語で書いたり、話したりすることができ、また、他人の感想や意見についても進んで聞くことができた、と感じていることが分かった。

一方、意欲的に取り組むことができなかったと回答した生徒の約半数が、英語で自分の意見や感想を書いたり話したりしようとしたり、約8割が他人の意見や感想を聞こうとしたことが分かった。

これらのことから、自分の意見を書いたり、話したりすることを苦手と感じていた生徒たちが、ワークシートを使った授業を行うことで、意欲的に活動に取り組んだり、英語で自分の意見や感想を書くことや話すことに積極的に取り組もうとしたことが分かった。

VI 研究の成果と課題

本研究では、研究主題を「4技能を統合的に活用できる指導の工夫」と設定し、平成24年度から全面実施される新しい学習指導要領を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと」を通じて得た知識等を「読むこと」、「書くこと」を通じて発信しようとする意識を高めるための実践研究を進めてきた。

1 研究の成果

(1) 生徒の「書くこと」への意欲の向上

ワークシートの活用後の生徒への意識調査の結果や生徒の変容により、本研究で開発したワークシート『自分のことばで書いてみよう♪』を活用すると、生徒の「書く意欲」を高めることが検証できた。

生徒が苦手と感じている「書くこと」の指導を充実させるため、「読むこと」から「書くこと」、そして「書くこと」から「話すこと」と「聞くこと」の活動につなげていくことが、4技能を統合的に活用できるようにする指導の工夫である。それにより、生徒が「書くこと」に臆することなく取り組むことができるようになり、「書くこと」から「感想を話し」、「感想を聞く」ことにつなげることができた。

また、他の生徒の意見をモデルとして参考にし、自分の表現として取り入れることができるようになった生徒もいた。

(2) 継続的な指導

本研究において開発したワークシートは、5分程度で書かせる活動である。これを継続して活用することで、生徒の書こうとする意識を向上させ、「話そう」、「聞こう」という意欲の向上へとつなげられた。

そして、それぞれの活動を積極的に行おうという意欲の向上が、さらに「書く」力の向上につながるという相乗効果が期待できる。

2 今後の課題

(1) 「正確に書く」力の育成

研究授業の実施後の生徒への意識調査の結果から、書くことを苦手と感じていた生徒が「書こう、書いてみよう」とする姿勢を向上させることができたと考える。

しかしながら、正確に書く力の育成については、ワークシートを活用し、他人の意見を取り入れることや、振り返りシートの活用などを通して、さらに研究を行う必要があると考える。

(2) 考え方や英文の共有と「話す」力の育成

本研究では、自分の書いたものを口頭で意見交換し、レポートを行う活動を取り入れたが、話そうとする意欲を十分に高めるまでには至らなかった。その原因として、自分の書いた英文が間違っているのではないかという不安から、話そうとしない生徒がいることが考えられる。

今後は、生徒の自信につなげるために、書いたものを共有する手段を他にも工夫していくことも考えられる。たとえば、教員がワークシートから他の生徒の参考となりうる文章を集めて事例集などにする。それを話す活動につなげていくことで、生徒が4技能を統合的に活用できるような指導法の研究をさらに行う必要がある。

平成22年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 外 国 語

地区	学 校 名	職名	氏名
千代田区	九段中等教育学校	主任教諭	高瀬 ひとみ
新宿区	牛込第一中学校	教 諭	相川 徳彦
品川区	小中一貫校日野学園	教 諭	○岡崎 伸一
目黒区	第三中学校	主任教諭	関根 公子
大田区	馬込中学校	主任教諭	三木 謙二郎
世田谷区	深沢中学校	主任教諭	◎宮本 猛司

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 阿部 大介

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
中学校 外国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451